

昆虫雑談



リュウキュウムラサキ(2016年10月2日、知床五湖、佐々木恵撮影)

天候不順の2016(平成28)年もそろそろ終わりを迎えようとしていますが、今年斜里町周辺では虫たちに異変が起きていました。彼らにとって最も影響があると考えられるのは気温の変化です。5月は平年より気温が高かったものの6月は低温で遅霜がありました。そのため、この時期、卵から孵化し2齢くらいまで成長した幼虫の餌となる食草が成長しなかつたり、枯れたりしたため十分に栄養を得られず、多くの個体が死滅してしまいました。チョウ屋さん(チョウ愛好家)たちと話をしていると、「最近カラスアゲハやアゲハチョウなどミカン科の植物を食草にしているアゲハの類はめっきり減って見ないね。」といった具合です。植物に依存する割合が高い虫たちには、このようにわずかな天候の変化でも大きな影響があります。他方では天敵の増加(気温の変化との因果関係は不明)も個体数の減少に関与しているとも言われています。

ところで、今年最大の気象災害といえば、台風があげられます。8月に3度もそれも短期間にです。気象庁のデータによりますと過去、1960年と1989年に北海道に3回接近している記録はありますが、上陸している例はありません。

虫たちの世界では台風や大型の低気圧に乗じて、はるばる遠征してくるものがあります。台風の場合は多くは南方の種類が主ですが、大陸からの低気圧に乗っ

てやってくるものもいるようです。過去の例では、斜里町や近隣町村で南方からやってきたアサギマダラやウスイロコノマチョウを確認しています。大陸飛散のものとしては、オオモンシロチョウやカラフトセセリなどが記憶に新しいところです。

今年も8月からの上陸台風に乗じてやって来たのですが、南方から珍客が訪れました。リュウキュウムラサキという綺麗なチョウです。これを発見したのは、ウトロの知床ネイチャーオフィスの自然ガイド、佐々木恵さんです。佐々木さんによると、10月2日に知床五湖での工作中、見たことのないチョウがいることに気が付きカメラに収めたとのこと。その後、気になって調べたら、リュウキュウムラサキではないかと。

このチョウ、姉妹町の竹富町に行けば普通にお目にかかることもできます。しかし斜里はもとより北海道東部から初記録、北海道内でも最北端の記録となる貴重な発見となりました。このような情報、今後もお待ちしております。(松田 功)

発行 知床博物館協力会2016.11.25

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町49
斜里町立知床博物館内

TEL: 0152-23-1256 FAX: 0152-23-1257

<http://shiretoko-ms.sakura.ne.jp/>